

# なるほど！ ST BOOK

今注目の医療系国家資格、ST(言語聴覚士)の人気の秘密と資格取得方法を徹底解説！

## 目次

- ▶ P.2 言語聴覚士とは？
- ▶ P.3 言語聴覚障害とは？
- ▶ P.4 言語聴覚士になるには？
- ▶ P.5 活躍する言語聴覚士



一般社団法人

**日本言語聴覚士協会**

Japanese Association of  
Speech-Language-Hearing Therapists

# 言語聴覚士とは？

## 話す・聞く・食べるのスペシャリスト

私たちはことばによってお互いの気持ちや考えを伝え合い、経験や知識を共有して生活をしています。

ことばによるコミュニケーションには言語、聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、病気や交通事故、発達上の問題などでこのような機能が損なわれることがあります。言語聴覚士はことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。また、摂食嚥下の問題にも専門的に対応します。

ことばによるコミュニケーションの問題は脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐にわたり、小児から高齢者まで幅広く起こります。言語聴覚士はこのような問題の本質や出現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

このような活動は医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士などの医療専門職、ケースワーカー・介護福祉士・介護

支援専門員などの保健・福祉専門職、教師、心理専門職などと連携し、チームの一員として行います。

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、障害のある方が豊かな社会生活を送ることができるように、ことばや聴こえ、飲み込みに問題をもつ方とご家族を支援します。



## 言語聴覚士は国家資格

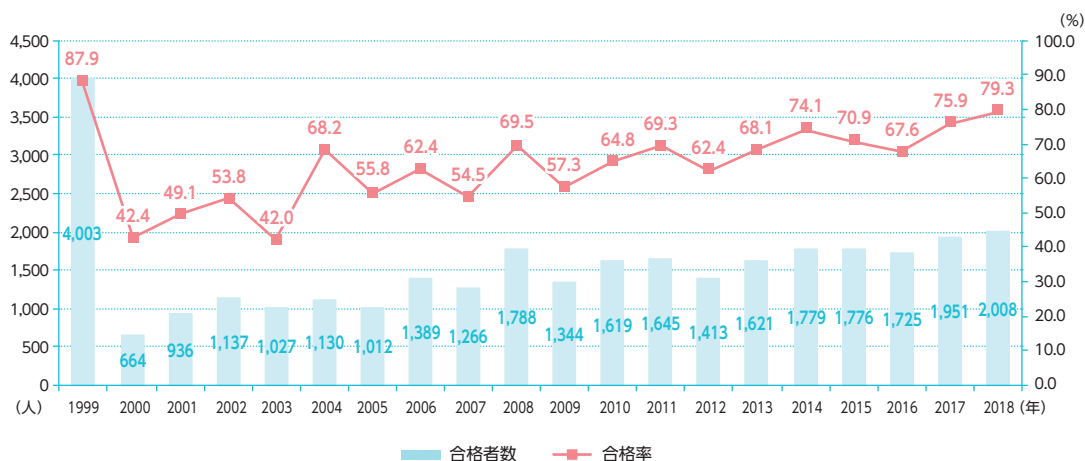
言語聴覚士法では、言語聴覚士は「厚生労働大臣の免許を受けて、言語聴覚士の名称を用いて、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うことを業とする者」とされています。

言語聴覚士法が制定されたのは1997年で、比較的新しい資格です。1999年に第1回国家試験が実施され毎年1,500人～2,000人が国家資格を取得しており、言語聴覚士の資格者数は現在31,233人です。(2018年3月)

### 言語聴覚士の数

言語聴覚士  
国家試験の  
合格者数累計

**31,233**名



# 言語聴覚障害とは？

ことばや聞こえなど、コミュニケーションの障害にはいろいろな種類があります。

## 言語機能 (language) の障害

### ● 言語発達障害 ●

知的な発達に遅れがあったり、コミュニケーションのための関係が育たないなど、種々の原因でことばの発達が遅れることがあります。ダウン症、自閉症などがあります。

### ● 失語症 ●

脳卒中などにより大脳の言語中枢が損傷を受け、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった言語能力が障害されます。運動性失語、感覚性失語などのタイプがあります。



### ● 高次脳機能障害 ●

交通事故や水の事故、脳卒中などにより脳に損傷を受け、後遺症として認知、記憶、注意、行為、学習などに障害が起こってしまった状態です。

## 聞こえ (hearing) の障害

聞こえが不十分であったり、ほとんど聞こえなかったりという聴覚障害(難聴)の方に聴力検査をおこない、補聴器や人工内耳の調整、装用指導、リハビリテーションなどをおこないます。



## 話し言葉 (Speech) の障害

### ● 声の障害 ●

声帯のまひや声の使いすぎによる障害、ストレスにより声がでなくなる失声、のどのガンのために手術した場合などがあります。



### ● 発音の障害 ●

脳卒中などが理由で口唇や舌などの動きに問題がある場合、ガンで舌を手術した場合、舌などの形や動きには問題ないが、発音の仕方を誤って学習した場合などがあります。

話しことばのための器官に異常があると、多くの場合は食べる、飲み込むといった行為にも支障が起きます。言語聴覚士はこうした摂食嚥下障害のリハビリテーションにも携わります。



ことばや聞こえに問題があると、周囲の人々とのコミュニケーションが困難となり、社会生活を送る上でさまざまな不自由が生じます。言語聴覚士の検査や訓練を受けてことばや聞こえの機能向上をはかることは生活の質を高める上でとても大切なことです。



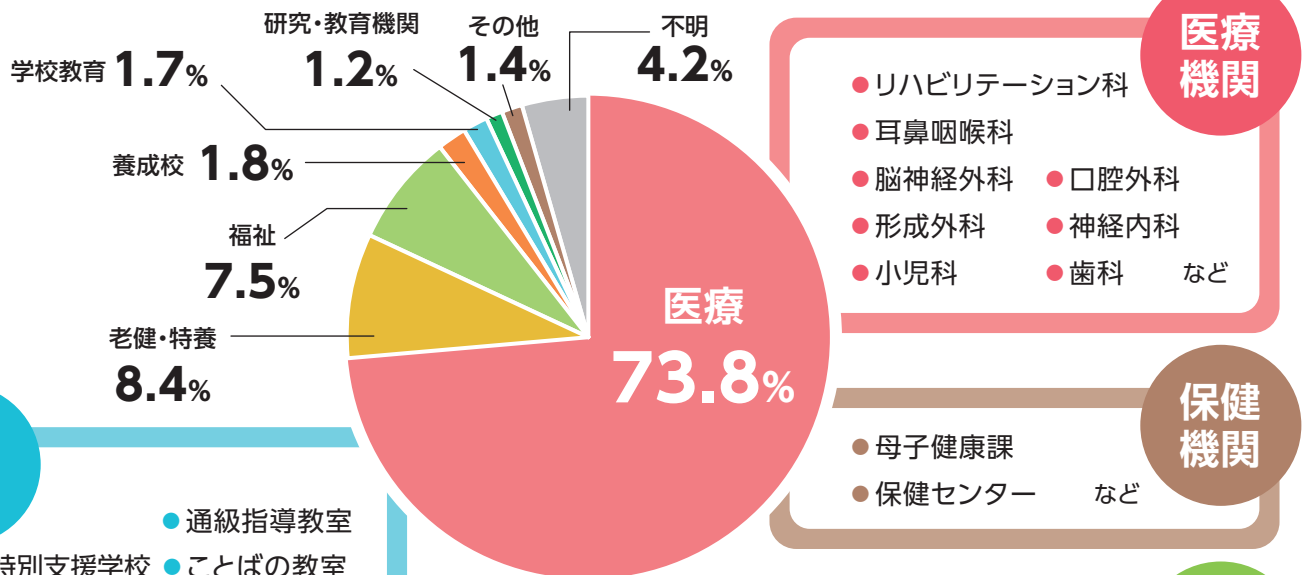
# 活躍する言語聴覚士

言語聴覚士は、おもにこんな場所で活躍しています。

言語聴覚士は医療・介護・福祉・学校教育など多様な職種で活躍していますが、勤務先として最も多いのは医療機関であり、日本言語聴覚士協会の会員の73.8%が勤務しています。診療科ではリハビリテーション科、耳鼻咽喉科、小児科、口腔外科、形成外科などが活躍の場となります。次に多いのは介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど高齢者を対象とする施設や障害者福祉センター、小児療育センター、通園施設などの福祉施設です。通級指導教室、特別支援学校などの学校教育や保健所などにも配置されています。



● **言語聴覚士の活躍の場(2018年)** 一般社団法人日本言語聴覚士協会 会員情報(2018年3月)より ※有識者(正会員14,820人)



**医療機関**

- リハビリテーション科
- 耳鼻咽喉科
- 脳神経外科
- 形成外科
- 小児科
- 口腔外科
- 神経内科
- 歯科 など

**保健機関**

- 母子健康課
- 保健センター など

**教育機関**

- 通級指導教室
- 特別支援学校
- 難聴学級
- 養護学校
- ことばの教室
- 聾学校
- 幼稚園 など

※学校は教員免許が必要



**介護・福祉機関**

**小児対象**

- 難聴幼児通園施設
- 心身障害児総合通園センター
- 肢体不自由児施設
- 児童相談所 など



**成人対象**

- 身体障害者更生相談所
- 身体障害者福祉センター
- 老人福祉センター
- 介護老人保健施設 など

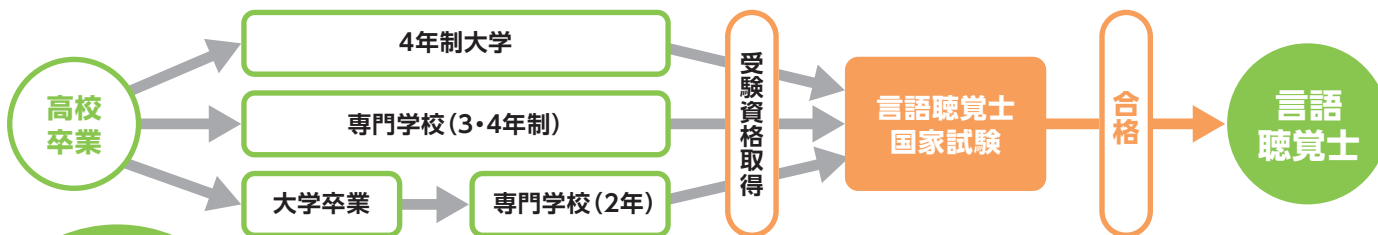


# 言語聴覚士になるには？

## 言語聴覚士へのプロセス

言語聴覚士の免許を取得するには言語聴覚士指定養成校を卒業し国家試験に合格する必要があります。高等学校を卒業後、すぐに養成校に進学する場合は4年制の大学や3年制または4年制の専門学校があります。一般の大学を卒業後、言語聴覚士を

目指す場合は大学、大学院の専攻科や専門学校で学びます。これらの多くは2年制です。2018年の時点で言語聴覚士指定養成校は73校83課程あります。



## 言語聴覚士養成校

養成校(専修学校・大学)では、コミュニケーション障害の病態や医学的治療といった専門的な知識はもちろんのこと、人間の心の働きを理解するための心理学や認知科学、ことばや音声のしくみに関する言語学や音声学、社会福祉や教育についての科目も学びます。高校卒業生対象の養成校カリキュラムは、主に基礎分野、専門基礎分野、専門分野(実習を含む)で構成されています。

### カリキュラム

養成カリキュラムは法律で定められています。

指定養成校で学ぶカリキュラムは、高校卒業生対象の課程では基礎分野12単位、専門基礎分野29単位、専門分野44単位(うち実習12単位)、選択必修分野8単位の計93単位以上が修めるべき単位とされています。1単位あたりの時間は講義・演習が15~30時間、実験・実習・実技が30~45時間となっています。

### カリキュラムの特徴

- 基礎分野では幅広い知識や人間性を養うため、さまざまな分野にわたる一般教養を身につけます。
- 専門基礎分野では医学、言語学、心理学など多彩な領域に加え、社会保障制度や関係法規などを学びます。
- 専門分野は言語聴覚障害について学ぶとともに、480時間以上の臨床実習も行われます。

### 言語聴覚士の養成カリキュラム(高卒生対象課程)

教育内容	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
	人文科学2科目 社会科学2科目 自然科学2科目 外国語 保健体育	基礎医学 臨床医学 臨床歯科医学 音声・言語・聴覚医学 心理学	言語学 音声学 音響学 言語発達学 社会福祉・教育
			■ 選択必修分野 言語聴覚障害学総論 失語・高次脳機能障害学 言語発達障害学 発声発語・嚥下障害学 聴覚障害学 臨床実習

## 拡大するニーズ

地域包括ケアシステムの実現に向けた事業として「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まり、市町村において高齢者の介護予防と社会参加に重点を置いた事業が展開されています。言語聴覚士も「地域リハビリテーション活動支援事業」の中で通所・訪問型介護予防事業、地域ケア会議などに関与し、地域で生活を送る方々によりよいコミュニケーション環境づくりを提案し、コミュニティ活動への積極的な参加にも貢献しています。

